

総合計画審議会における意見と対応

No.	取組名称等	主な意見	回答案
1	基本構想 (SDGsの理念を活かしたまちづくり)	SDGsの概念は、根底としてちりばめられることから、ゴールを入れるだけでなく、扱い方を見直す必要がある。	基本構想(31,32ページ)「まちづくりの視点」として、施策推進上、念頭におくべき理念として記載内容を変更するとともに、巻末資料としてSDGs17のゴールに対する取組目標等を掲載します。
	基本構想 (第2期三田版総合戦略)	・「評価」について、どの事業で効果があり、また、効果が出なかった事業は何かを客観的に書く必要がある。	基本構想39ページ「ア 三田版総合戦略の推進」の赤字表示部分のとおり修正します。
		・「体系」は、「移住」⇒「定住」⇒「活動・交流人口増加」⇒「少子化対策」の順に構成し、「移住」では働く場を創出するなど、内容についてもステージに応じて精査すべきだ。 ・文字だけでなく各目標が循環しているような図で示した方がわかりやすいのではないかと。	基本構想39ページ「ア 三田版総合戦略の推進」の赤字表示部分のとおり修正します。
	基本構想(その他)	第5次総合計画の基本目標にもある「ひと」、「まち」、「さと」という10年後のビジョンをどう施策に落とし込むかという視点が重要であるが、「まち」へのフォーカスが多くのので、施策横断的な視点も加え、「ひと」「さと」の反映も検討して欲しい。	基本構想(35ページ)に「ウ 「ひと」「まち」「さと」を活かすまちづくり」として項目を追加します。
		専門性が高い取り組みであることから、調書における用語の取り扱いが分かりやすい表現となるよう心掛けて欲しい。	平易な言葉への置き換えや、脚注による説明など分かりやすい記述に努めます。
	テーマに応じた施策横断的な表現を検討して欲しい。	基本構想(35ページ)に「イ 施策間連携などによる横断的な取り組み」として項目を追加します。	

総合計画審議会における意見と対応

No.	取組名称等	主な意見	回答案
16	基本計画 （【15】商工業の振興）	後継者がいない企業と学生を結び付け、起業だけではなく事業継承を考えることも大事である。若者の意見によって画期的な成果が生まれるかもしれないことから、熟練者の意見と若者とのマッチングという視点も必要ではないか。	ご意見のとおり、若者とのマッチングという視点は必要と考えることから、取組⑥における相談会等の事業承継の取組のなかで、商工会等関係機関と連携しながら、若者を含めた幅広い年齢層への働きかけや経営者との交流の場を提供していきます。
		オンラインやICTの活用が重要であり、市内には高いスキルを持つ人も多く、定年退職者のリターン制度や働き方改革等の後押しにも効果的である。	高いスキルを持った高齢者が多数いらっしゃるなどから、三田市では、いきがい応援プラザ～HOT～を設置しています。同施設におけるシニア就職支援相談会など、市における現行の取組と併せて、取組⑥における高齢者への就労支援のなかでマッチング・人材活用に努めていきます。
		学生が市内で就職するにはまちへの親近感が必要である。工場見学等を通じて意見を聞くなど対面で関わることによって親近感がわく場を提供して欲しい。	市では就職希望者を対象とした企業訪問ツアーや学生と事業者とが活動体験等を通じてつながりを広げる事業などを、商工会では事業者の取組や工夫を紹介する「まちゼミ」等を実施しており、こうした交流の場を継続し充実を図っていくとともに、取組⑥において、学生等へより効果的で魅力のある情報発信に取組んでいきます。
		成果指標①創業件数について、5年後は3倍の創業件数が目標値となっているため、定年退職層へもPRすることが大事なポイントとなるのではないか。	ご意見のとおり、定年退職層へのPRも大切であると考えています。したがって、現状においてもさまざまな年齢層の方が起業しておられますが、取組①における起業家の育成支援のなかで、定年退職層を含めた幅広い層からの人材発掘に努めていきたいと考えています。
		農商工連携による三田らしい食文化と観光振興とのマッチングを検討してはどうか。	ご意見のとおり、17.観光・交流・文化の振興 取組②において食や伝統文化などの魅力発信に取組むとともに、これら観光振興と連携することで新たな魅力とにぎわいの創出につなげ、地域産業の活性化を図っていきます。
		「20年後に避けたい三田の状況」について、コロナ禍の問題は今直面している問題で10年後の記述としては違和感がある。「時代の変化に応じた商品やサービス提供ができず」のような表現にすべきでは。	「10年後に避けたい三田の状況」の赤字修正表示のとおり、「時代の変化に応じた商品やサービスの提供ができず」、「10年後に目指したい三田の状況」並びに「4取組み」の事業者・団体等及び市②「社会のニーズ」の赤字修正表示のとおり、「事業承継」とそれぞれ修正します。

総合計画審議会における意見と対応

No.	取組名称等	主な意見	回答案
18	基本計画 （【17】観光・交流・文化の振興）	伝統・文化に関しては、シビックプライドを醸成するような取り組み等、教育的な観点をいれて取り組んで欲しい。	伝統文化の保存・継承と合わせ、子どもたちにも身近に触れる機会を提供することにより、シビックプライドの醸成に努めます。
		総合文化センターに関しては、近隣市町との連携協力を通じて、それぞれの施設が規模等に応じてすみわけする視点をもって運営することで、三田の独自性が現れるのでないか。	総合文化センターの運営にあたっては、神戸市北区や近隣市との連携を図りながら施設の有効活用を進めます。
		ポータルサイトや情報発信に関しては、各団体等が横ぐしで発信できるよう集約化する必要がある。また、情報を市民等にプッシュ型で通知できるようにすることも必要である。	「4 取り組み(市)④」の赤字修正表示のとおり、「出すとともに、集約型の情報発信に取組みます。」と修正します。 ※今年度より実施する「さんだのまちを遊ぶ博覧会」では、一定期間に開催される各事業者団体が提供するプログラムを集約し発信するしくみとして試行スタートします。引き続き各団体等の取組を集約し発信する横断的なしくみの構築、ウェブサイトの運用に取組みます
		プロジェクションマッピング等を通じて、今ある資源の活用をどう活用していくのか検討する必要がある。	プロジェクションマッピング等の手法も研究しながら、効果的な地域資源の活用と発信の取組みを進めます。
		行政の取組①「地域資源の保存継承」について、市民がまず地域資源について知る必要がある。	「4 取り組み(市)①」の赤字修正表示のとおり、「地域の歴史や文化に触れる機会を提供し、」と修正します。

総合計画審議会における意見と対応

No.	取組名称等	主な意見	回答案
19	基本計画 〔18〕まちの再生	「開発許可制度」は一般的に馴染みの薄い言葉であり、一般の家屋についても許可等があるというイメージを住民に持ってもらえるような記述にしてはどうか。	「開発許可制度の弾力的な運用」の用語説明については、別途注釈で示しました。
		制度の理解には周知が必要であることから、「3 10年後に目指したい三田の状況」C欄について、「生活利便性の向上や住民の転入が促進されるために、開発許可制度の弾力的な運用を行う」のように、伝わりやすいよう表現の順番を変更して欲しい。	「10年後に目指したい三田の状況」C欄の赤字修正表示のとおり、「生活利便性の向上や住民の転入が促進されるなど、地域コミュニティや地域活力が維持されています。」と記載の整理します。
		商業空間はまちの賑わいにも関係してくるため、言及しても良いのではないかと。また、ニュータウンの今後を検討する際に、現在の住民の活躍という視点も大切である。	本基本計画では、快適な都市空間と恵まれた自然環境が調和したまちづくりを推進していくうえで、必要となる都市基盤の仕組みに主眼をおいて、取り組み内容を記載しております。よって、まちの賑わいをもたらす商業空間や住民の活躍等については、総合計画の各施策体系のなかで、横断的に取り組んでまいります。
		関西学院大学の学生がまちに与える影響は非常に大きい。令和7年に関西学院大学が兵庫県や三田市と連携し起業支援施設を開設することは、まちの再生の大きなポイントであり、大きく期待が持てるのではないかと。	「施策7若者が集うまち」の取り組みで記載されていません。
		人口が核にあり、既存人口の方が再生するという面に加え、交流人口、移住人口、滞留人口、他にもインバウンド等があり、周りからの活性化という視点も重要であると感じた。ハード面だけでなく、ソフト面や周辺人口も活かした取り組みを検討していただきたい。	総合計画の各施策体系のなかで、横断的に取り組んでまいります。 「施策7若者が集うまち」の取り組み⑥及び「施策17観光・交流・文化の振興」に記載されています。

総合計画審議会における意見と対応

No.	取組名称等	主な意見	回答案
20	基本計画 〔19〕良好な住まい	空き家と居住希望者のマッチングのためには、三田市がどのようなまちであるかを知ってもらい、移住を後押しする施策(例えば、一定期間のフリーレント制度など)とそれを上手にPRする工夫が必要である。	現在、兵庫県が県営住宅三田富士が丘高層住宅で、「お試し居住」を実施しており、その後三田に移住された方もおられます。すまいの相談窓口や移住相談窓口「Sanda住まいる」を通じて、移住希望者にオンライン相談など様々な手法を用い、工夫しながら、三田の魅力発信に努めてまいります。
		ライフステージ・ライフスタイルに応じた住まいづくりについて、ソフト・ハードの両面から考える必要があり、三田でのライフスタイルが伝わるような具体的・イメージを伝えるキーワードを取り入れてはどうか。	「4 取り組み(市)③」の赤字修正表示のとおり、「2050年カーボンニュートラルの実現とエコスマートタウンに向けて、省エネ性や耐久性等に優れた良質で環境にやさしい住宅(ZEH等)の普及を促進し、環境への負荷の少ない持続可能な住まいづくりに取り組みます」と修正します。
		良好な住まいを作るうえで、ハード面だけでなく、きめ細かい生活環境などの情報提供により暮らすうえでのイメージを提示することが重要である。	住まいの相談窓口等を通じて、引き続き暮らしのイメージができるようきめ細かい情報提供に努めてまいります。
		魅力ある住まいはサービスの部分が大きく、サービスの充実したまちに人は集まってくる。三田市は、交通、暮らし、行政、買い物、地域のふれあい、イベントなど、どのような行政のサービスによって住宅を快適にして人を集めていくかという視点が必要である。	総合計画の各施策体系のなかで、横断的に取り組んでまいります。
		成果指標について、「まち」だけでなく、「さと」に関連する指標を検討してはどうか。	5 成果指数については、市域全体を対象としており、農村地域も含む指数であることから、現行どおりとさせていただきます。
		市街化調整区域の考え方を抑制ではなく、現在あるものは活かすという発想をしてはどうか。農地があることを魅力として、移住促進につなげるのが良いのではないか。	市街化調整区域における土地利用の弾力化については、基本計画「まちの再生」で取り組むこととしています。なお、本市では空き家バンク制度において、農地の取得下限面積を緩和することで、農地付空き家の活用も推進しているところです。

総合計画審議会における意見と対応

No.	取組名称等	主な意見	回答案
21	基本計画 （【20】交通ネットワーク）	公共交通機関について、利用促進や使いやすさが重要であることに加え、レンタサイクルなど新たなニーズへの対応についても検討して欲しい。	「4 取り組み(市)③次世代につながる新たなサービスの実現」を推進していく中で、様々な移動手段のひとつとして検討していきます。
		貨客混載など新たなサービスという観点になると思うため、活用しやすいものになるよう工夫してはどうかと思う。	「4 取り組み(市)②地域内交通の充実」において、移動主体や目的に応じて、貨客混載等の新しい取組みを発展させながら路線バスの維持、再編に取り組みます。
		住まいのサービスという観点からも、不安を感じている中で車が来てくれるという安心感、誰でもつながるといふ気持ちが重要である。各地区での実証実験を重ね、モデル地区を作り広げていくことも重要である。	各施策の取組においては、モデル地区での実証実験やその拡充により推進していきます。
		交通や道路の維持には行政コストや費用がかかることから、道路維持に関しても地域に任せるといふ姿勢を持ち、これからは自分達で何とかするという地域住民に補助を行うというような視点を持ってはどうか。	道路の除草や簡易な植栽管理について、自転車歩行者道やポケットパークなど一般交通の影響を受けにくい箇所等において、市民や事業者が維持管理に参加していただけるような市民参画の仕組みづくりを進めます。併せて、すで実施している道路管理に必要な資機材の提供や生活道路の舗装整備補助金についても、さらに利用し易くするような検討を進めます。
		公共交通サービスについて、今後は「人」だけではなく荷物なども目標値として検討してはどうか。	貨客混載等の取組は公共交通を維持するための手段として有効ですが、目的は「人」の移動を支える公共交通の維持であることから、荷物等の輸送量は目標値とはせず、別途、市が策定する交通に関する計画の中で検討していきます。

総合計画審議会における意見と対応

No.	取組名称等	主な意見	回答案
22	基本計画 〔21〕水の保全	市民に三田の水の良さを理解してもらえるよう、市民や企業に向けて、水の価格帯や潤沢さ等についての発信力を高めることが重要である。	「4 取り組み(市)①」の赤字修正表示のとおり、「安定した良質な水を供給するため、水質検査の徹底と浄水処理施設の適切な運転管理を行います。また、管路等の施設の適正な維持管理に取り組むとともに、老朽化対策として計画的な更新を進めていきます。併せて、三田の水道水について、一人でも多くの方に関心を持って頂くよう情報発信に努めていきます。」と全面的に修正します。
		水は重要なインフラであることから、民間に委託することなく公営を維持するとともに、適正な維持管理に努め、持続可能な状態を目指して欲しい。	既に業務の一部は民間に委託しており、今後も民間活用は不可欠と考えていますが、事業方針の決定や計画づくりなど業務の根幹に係る分野はやはり行政が担う部分と考えています。 健全経営の推進の実現には、水の安全を守る最終責任はあくまでも地方公共団体であることを前提に、その責任のもと効率性を高める中で民間委託も活用しながら、水道サービスの安定的な維持、運営を行ってまいりたいと考えております。
		近年多発する豪雨災害への備えを含め、上水道だけではなく、里の保全や田畑の維持など農業用水も含めた、水の維持管理について持続可能性を目指す必要がある。	田畑など農業用水の水の維持管理については、施策「16 農業の振興」において、行政の取り組み「①農村の再生」の中で記載しています。
		スマートメーターについては、導入に相当の時間を要することから、スピード感を持って進めてはどうか。	デジタル技術の活用による業務の効率化として、スマートメーターの導入を検討してまいります。しかし、現時点では多額の導入コストを要することから、時期については、他市での実証実験の状況や投資効果を見極めながら検討を進めて参りたいと考えています。

総合計画審議会における意見と対応

No.	取組名称等	主な意見	回答案
23	基本計画 （【22】里山・自然の 保全）	本施策は三田らしいテーマであるため、今後の三田市の具体的な里山の取り組みについて打ち出しているのも良いのではないかと。	「4 ①里山が息づくまちづくり」の赤字修正表示のとおり、「豊かな里山は、バイオマスエネルギーやCO2の森林吸収源として地球温暖化防止に寄与するなど、多面的な機能があります。これら里山を人と自然の博物館などの専門機関や多様な主体とともに、森林環境譲与税も活用しながら保全活用する取り組みを進めます。」と全面的に修正します。
		持続可能な里山の取り組みに力を入れていくということから、里山の定義を明確化するとともに、里山文化を市民同士で共有し、相互理解を深めることが大切であると。	「1 10年後に目指したい将来像」の赤字修正表示のとおり、「人の働きかけを通じて形成されてきた山や川などを」と修正します。
		市内に多数ある学習施設をさらに活用し、相互に連携を図るべきではないかと。市民の環境への取り組みに対する具体的支援を行うことで、環境理解を促してはどうか。	有馬富士自然学習センターでの学習プログラム(人と自然の博物館連携)で自然環境学習を進め、生物多様性の保全、里山保全の取り組みを行います。また、里山の保全は生き物を育む活動であり、自然破壊ではないことを環境学習・教育の充実で伝えてまいります。
		今後検討する植栽管理計画は、住民による管理の視点など住民から直接意見を聴取する機会を設けて欲しい。その観点からも、「4 市民の取り組み」について、植栽の維持管理に協力するというだけでなく、市民に主体的に動いていただくようなニュアンスの記載を検討してはどうか。	「4 取り組み(市)⑥」の赤字修正表示のとおり、「新たな植栽管理の取り組み(グリーン・マネジメントさんだ2.0)を進め」「交通の安全や良好な道路景観の維持に必要な」とそれぞれ修正します。
		「4 行政の取り組み」④欄「里山環境と生活環境の調和を図り、住民相互理解のための啓発等の推進」について、「周辺環境に配慮した取り組み」に関する記載は検討頂きたい。市民の相互理解を深めるために、啓発等の支援を行っていくことが重要ではないかと。	「4 取り組み(市)④」の赤字修正表示のとおり、「生活環境と農業振興の調和を図るため、」と修正します。



総合計画審議会における意見と対応

No.	取組名称等	主な意見	回答案
24	基本計画 （【23】持続可能な環境づくり）	2050年カーボンニュートラルの推進を見据えた場合、逆算して何をどのように取り組んでいくのか。カーボンニュートラル推進の記載について、もう少し具体的に検討をしてはどうか。	R4年度中にカーボンニュートラル推進の計画を策定する予定でその計画の中で具体的な取り組みを記載します。
		太陽光発電システムなど再生可能エネルギーを導入する際には、自然との共生の観点、景観への配慮や災害等の発生の懸念に留意すべきである。	「4 取り組み(市)②」の赤字修正表示のとおり、「再生可能エネルギーの主力となる太陽光発電を推進するほか、新ごみ処理施設整備・運営や里山のバイオマスを活かした、持続可能な新たな再生可能エネルギー利用の拡大を、自然環境や景観の保全および市民の安全確保に配慮しながら進めます。また、市が所有する施設などは積極的に太陽光発電設備を設置します。」と修正します。
		成果指標については今後の調査により具体的な数値を示すようだが、目指す方向性が見えにくいのでしっかり精査して欲しい。	R4年度中にカーボンニュートラル推進の計画を策定する予定でその計画の中で具体的な方向性を示します。
		新ごみ処理施設は、子どものところからごみの減量を意識するよう、環境学習の体験型施設も視野に入れて検討して欲しい。	「4 取り組み(市)③」の赤字修正表示のとおり、「子どもから大人まで多様な機会を活用した環境教育」と修正します。 ※新ごみ処理施設においても、環境教育・学習機能を備えます。
		環境づくりの一端を担うと思われるので、SDGs推進の観点も視野に入れて基本計画の内容を検討して欲しい。	環境基本計画、一般廃棄物処理基本計画、新ごみ処理施設整備基本計画等の策定、見直しにあたっては、SDGs推進の観点から内容の検討を進めます。
		全般的な意見として、カタカナ表記等については、市民に平易で分かりやすい表現を使用されたい。	回答不要

総合計画審議会における意見と対応

No.	取組名称等	主な意見	回答案
25	基本計画 〔24〕協働・共創の まちづくり	SNSについては、取り組みの目的にあったシステムを導入しなければ、その効果が十分に得られないので、導入する際は、何のために導入するのか精査しておくことが重要である。	ご指摘の通り、SNSの導入に当たっては、その目的を明確にして、システム構築を行ってまいります。
		成果指標については、行政と各種団体、各種団体間と連携する等、協働・共創の考え方のもと様々な取り組みが進んでいることが分かるような指標にするよう検討いただきたい。	〔5 成果指標〕の赤字修正表示のとおり、「新たな協働事業提案制度への提案数」に変更します。
		様々な人をつないでいくには、様々な情報を得て、必要な人に発信していくコーディネート機能が必要である。こうした機能を着実に、長期に渡って支えられる人材を確保するとともに、新しいことを考えるコミュニケーションタンクのような機能の付加についても検討して欲しい。	〔4 取り組み(市)③〕の赤字修正表示のとおり、「人づくり、地域づくり活動の提案と」「人財やノウハウ、資金等の」「との連携」「それぞれができる事をみんなで支える」「協働事業提案制度の拡充を軸に」とそれぞれ修正します。
		まちの新たな価値や魅力を生み出すために、できる人ができることを先取りして取り組めるような環境づくりをしていくことが、共創につながっていくのではないかと。	ご指摘の通りです。ご指摘の趣旨も踏まえて市としての支援のあり方や市民活動推進プラザの機能強化に取り組んで参ります。
		行政はまちづくりのビジョンを掲げ、市民活動等に関わる人へまちの方向性を示すとともに、行政が市民の思いを知り、市民同士がつながりあえるような場づくりと支援を進めることで市民活動がしやすくなる環境づくりを進めて欲しい。	住民主体の自律分散型の地域づくりを通じたまちづくりを目指して参ります。市の役割として、目標像の共有に向けた支援や連携基盤の整備に取り組んで参ります。
		市民の取り組みについて、「地域社会につながろうとする意欲を持ち続ける」は現実的ではないと感じるので、「三田市内の地域社会につながっている成功事例に関心を持つ」としてはどうか。	〔4 取り組み(市民)〕の赤字修正表示のとおり、「自らも地域づくりに関わろうとする関心」と修正します。
		行政の取り組みについて、「地域につながっている成功事例の発掘と、それを三田市の模範モデルとすること」を入れてはどうか。	〔4 取り組み(市)④〕の赤字修正表示のとおり、「モデルや参考となる事例の発掘に努め、」と修正します。
		事業者・団体等の取り組みについて、「地域づくり」や「経営資源」という表現が分かりづらいので、「地域社会の一員として、三田市の資源(宝・強み)をいかしながら、三田市の目指す方向に沿った形での活動をしています」としてはどうか。	〔4 取り組み(事業者・団体等)〕の赤字修正表示のとおり、「保有するノウハウ・マンパワーなどの」と修正します。

総合計画審議会における意見と対応

No.	取組名称等	主な意見	回答案
26	基本計画 （【25】行政経営）	シート中「10年後に目指したい三田の状況」の記述について、何を目的に取り組んだ状況かが分かりづらい。本来は市民が持つニーズに対して実施する取り組みが実施された状態や、達成している状態を記述するところ、具体的な記述がされていない。記述内容について精査して欲しい。	「3 10年後に目指したい三田の状況」A、C、Fの赤字修正表示のとおり、目的を明確にし、達成している状態を記述するとともに、目的と手段の繋がりがわかるようにそれぞれ修正します。
		デジタル化に関する記述については、効率化されることによる影響も念頭に、記述が全体的に整合するように記述を整理して欲しい。	「4 取り組み(市)⑤」の赤字修正表示のとおり、「IoT（インターネットに繋がるもの）やAI（人工知能）等、デジタル技術を積極的に活用し、システム運営の効率化に努めるとともに、デジタル技術を活用した電子申請など、市民ニーズに沿った行政サービスを提供します。市民が利用する情報システム・アプリケーションは、利便性の向上が図れるよう、利用者側の視点に立った取り組みを進めます。」と修正します。そのほか、各項目について、デジタル技術として用語の整理をします。
		職員のリカレント教育や兼業等の多様な働き方を通じ、時代に応じた行政の役割に対応できよう、職員の能力を引き出すような人材育成について検討いただきたい。また、10年後には市民も自分事としてまちづくりに関わっていくことを前提とした行政のあり方についても検討いただきたい。	「4 取り組み(市)①」の赤字修正表示のとおり、「きめ細やかな定員管理と社会情勢の変化に応じた人材育成」「正規職員に限定しない、多様な任用形態により、多種多様な人材を積極的に採用します。また、社会情勢の変化に対応していくため、職員の社会貢献や地域貢献にもつなげる人材育成を積極的に推進していくとともに、成果型の給与処遇を確立します。更には高度な施策の推進や市民ニーズに対応するため、専門職人材や民間人材等を積極的に採用します。」と修正します。
		成果指標においては、現在提案されている指標だけでなく、効率化することで行政サービスがどのように良くなったかが分かるような指標についても検討いただきたい。	「4 取り組み(市)⑥」の赤字修正表示のとおり、「公民連携と共創のプラットフォームづくり」「まちづくりの課題解決や公共サービスの提供について、事業者等の多様な主体が持つ特長やノウハウ、新たな発想等を活かした取り組みを増やし、サービスの質的向上や多角化を進めます。これら公民連携に関わる窓口を一元化し、事業者等の提案等に対する迅速かつ柔軟な対応を図ることで、まちの未来を共に創出します。」、成果指標として「公民連携により実現した事業等の件数(累計)」をそれぞれ修正及び追記します。